

**令和4年度
第3回藤島地域振興懇談会
会議録(概要)**

期 日：令和5年3月16日(木)

場 所：藤島庁舎3階 大会議室

第3回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 令和5年3月16日(木) 18:00～20:10
- 会 場 藤島庁舎3階 大会議室
- 出席委員（五十音順） 13名
池田玲子、井上佳奈子、上野隆一、大沼恒司、小池昌和、今野良和、齋藤金廣、齋藤豪、齋藤直美、佐藤智信、高橋俊一、高山千代子、中田英幸
- 欠席委員 2名
伊藤公司、齋藤美由紀
- 市側出席職員
〈藤島庁舎〉 支所長 成田讓
総務企画課長 小林正雄
市民福祉課長 長谷川郁子
産業建設課長兼エコタウン室長 上野衛
総務企画課主査 後藤春雄
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優
総務企画課主査 村田喜栄
政策企画課政策企画専門員 帯谷友洋
地域振興課地域振興専門員 齋藤眞一
- オブザーバー 山形県立庄内農業高等学校 校長 坂井孝朗
- 傍聴者 2名
- 次 第
 1. 開 会（小林正雄総務企画課長）
 2. あいさつ（今野良和会長）
 3. 報 告（成田讓藤島庁舎支所長）
 - （1）藤島地域教育振興会議について 報告資料1
 - （2）第2回藤島地域振興懇談会での質問事項について 報告資料2
 4. 説 明 ・ 協 議
 - （1）第2次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しの進め方について 資料1、資料2、資料3、資料4
 - （2）令和5年度藤島地域主要事業 資料5-1、資料5-2
 5. その他
 6. 閉 会

○説明・協議

今野良和会長

皆さんおぼんでございます。今、藤島の教育のあり方について将来どう取り組んでいくか、大変重要な時期にさしかかっています。約 50 年前に建設した中学校の老朽化に伴い環境を整えることと、それに合わせて藤島地域における小・中学校のあり方について議論が進められています。昨日の町内会長会でも庁舎から説明がありましたが、大変関心の高い問題ですので、委員各位からはいろいろな意見を頂戴できればと考えています。

諸情勢が混沌とする中、今後の展望を考えるには非常に難しい状況にきていますが、伝統的に農業を中心に頑張ってきた地域ですので、何が今の藤島に欠けているのかを委員の皆さんからしっかり議論していただいて、提言というような形でできればと考えていますので、忌憚のないご意見を頂きたいと思っております。よろしくお願いたします。

第 2 次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しの進め方について、事務局から説明をお願いします。

(1) 第 2 次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しの進め方について

— 説明 —

資料 1、2、3、4

政策企画課政策企画専門員 帯谷友洋

藤島庁舎支所長 成田 譲

今野会長

皆さんから自由に挙手をして発言をしていただきたいと思います。

前期計画で取り組んできて足りなかったところや、これからの後期計画でどのように取り組んだらよいかなど、全体的に眺めてみて感じたことについてご意見を頂きたいと思っております。

委員

藤島に限ったことではないと思いますが、私が資料・データ等を見る限り、この 3 年間のコロナ禍のおかげで、地方の活性化が 10 年分一気にしぼんでしまったと感じています。この間の藤島の状況を見ても活気あふれる街には感じられないし、さらに高齢化が進んで若い人がどんどんいなくなり、今後どのように地域がつくられていくのか大変不安に思っています。

地域活性化に寄与する人たちは、大体の皆さんは若い人からという話をするんですが、若い人は仕事もありますしやっぱり忙しいのだと思うんです。あれもこれもやることは難しい上に、地域の活性化というのはあまりお金になりません。そのような状況なので、元

気がよくて十分に生活に余裕のある 65 歳以上の人に意欲を持って地域のために頑張る人がいると私はみているんです。年の割に非常にやる気のある人が藤島にはいますので、そんな人たちに力を貸してもらえそうな体制作りも必要だと思っていたところです。

今野会長

委員も私も後期高齢者になりました。先日、五木ひろしのショーに行ってきたのですが、75 歳になっても 2 時間びっしり歌っているんです。ですから、私も頑張らないといけないなど刺激を受けてきたところでした。時間的に余裕のある人が地域のために頑張るということは大変重要な視点だと思います。地域振興懇談会のメンバーにも若い人はいますがなかなか出席率がよくない状況ですので、そういうことを考えるとある程度の余裕のある人が今一度頑張る必要があるのかなと感じました。

委員

自分のお店をやりながら、色々な企画イベントをしています。収益を上げるのも大事なことです。イベントで来てくれたお客様を 2 回目、3 回目と来てもらうことに繋げていくかが商売のミソだと思っています。

観光協会の会長になって 4 年目になります。観光協会は会長以外、他団体のリーダーの方達が入っている組織になっており、この体制では、事務局の役所の方たちが立案したものに賛成・反対でしか関われないので、もどかしさを感じています。先日の理事会で話したのですが、やはり観光協会として自分たちでも立案、企画、運営などに携わっていくべきだと思っています。せっかく 3 大祭りプラス、イルミネーションの形で藤島にあるイベントを、1 回来て終わりではなくて、そこから 2 回、3 回と藤島に来るきっかけを作るようなイベントにしていかなければダメだと思います。いかにして 2 回目、3 回目につなげるか、また藤島のファンになって来て頂けるような企画運営をしていくことが重要だと思います。これまで観光協会の会長としてやってきましたが、力不足と反省しているところです。

今野会長

観光協会の会長は本当に頑張っていると思いますが、それをサポートする体制ができてないというか、1 人で頑張っている感じも受けます。観光協会のメンバーをもう少し観光産業や商売に携わる方々を中心にするなど本気で取り組んでいく体制も考えていく必要があるのではないかと感じたところです。

委員

先程の委員の話に共感しております。子供のこともあるので、本当に若い世代も忙しいのです。若い人を呼ぶことも 1 つの考え方ですけど、自分たちより上の世代の人が楽しん

でいる姿を見せてもらえたら、なにか希望が持てると思うのです。若い人に合わせる視点ではなく、自分たちが楽しもうという感じでやってもらった方が、私たちの世代でもこういう楽しみ方もあるのかとイメージが湧いてきたり、目標になるかなって思いました。

委員

藤島 みんなが生き生きと暮らす中で地域が盛り上がっていくのが理想だと思うし、そうありたいと常々思っています。中学校が改築の時期を迎えることもあり、将来を担う子供の人数を増やして欲しいけれども急には増えません。

歳をとったから何もしないとかではなく、いきいきとやりたいことが出来て、やる気を育てながら楽しく暮らせる環境であることはすごく大事なことだと思います。グラウンドゴルフをする人は多くなりましたが、協会の人からは新しい人が増えない悩みもあと聞きました。私たちの団体にも入ってくる人が少なくて先細りが心配な気持ちはありますが、そこにいる人たちが楽しく活動することで、天の岩戸じゃないですけど楽しそうなことやっているな、俺もやってみようかという気持ちになれるように、できることをやろうと思っています。

それから、委員がおっしゃったように、先輩たちが楽しそうにしている姿を見るのはすごくいいことで、藤島で生きていることを実感でき、活気にも繋がるのではないかなと思っています。

庄農の子供達も生き生きとしていますね。いろいろなことに積極的に関わる子どもたちの姿が見えて、庄農うどんの事例も納得して聞くことができましたので、そういうことが大事だと思いました。

今野会長

庄農うどんの話が出ましたので、坂井校長先生からお話ししていただければと思います。

坂井庄内農業高等学校校長

令和2年2月末に政府からの要請で全国一斉に臨時休校となり3月1日に卒業式を行いました。今回、卒業した生徒達は、臨時休校の時に入学した生徒で、高校生活や諸行事がほぼ制約されて3年間過ごしてきました。この会でもウィズコロナの話が多く出されましたが、今年度の目標として、ウィズコロナの色々な制約の中でできる最大限の教育活動を行うことを目標に取り組みました。

その中で連携事業として庄農うどんにも庁舎からいろいろと協力を頂いて取り組ませていただき、農業クラブの全国大会では全国で4番に入るなど非常に評価して頂き、本校の生徒達もよく頑張ったと思います。ただ、学校の外に発信するところまで進んでいなかった部分も実はあって、次年度以降進めていきたいと考えております。

県議会では産業高校支援の予算が付いて、学校の特色をアピールできる支援があります

ので、いろいろなところでご協力を頂きながら進めていきたいと思っています。これまで色々溜まったものを新年度から爆発させていきたいという思いです。

明日合格発表なのですが、既に新聞等で報じられている通り、生徒数が減少していることをこの数年ひしひしと感じております。志願者については今、県内の公立高校では一部の高校と一部の学科を除いたほぼ全校で定員割れが生じており、田川地区での公立高校志願者は昨年度より 50 名ほど減っていると思います。私学の方に流れている部分も確かにあるとは思いますが、子供たちを勇気づけ頑張ってもらえる環境を整えてバックアップしていくことが私たちの使命だと思っています。幸い、いろんなご理解を頂いて、今年度の本校の志願者は昨年度と同数、県内の農業系の高校では一番の志願者を確保できました。そういった意味では皆さんからのご支援をいただいて成果が出てきていることに関して本当に感謝を申し上げたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

委員

庄農うどんは、学生募集に役に立っていますか。

庄内農業高等学校校長

今回、全国大会で優秀賞をとった生徒の発表の内容が、実は庄農うどんの活動についてのこと、入学してきた生徒に庄農うどんを知っているか聞くとほぼ全員が知っていました。もちろん生徒たちはうどんのために入学したわけではないですが、地域の皆様と一緒にやってる活動について、魅力を理解して感じてくれているのかなと思います。学校としてはやはり、地域に貢献できる人材を育成することが一番の使命だと思いますし、今回卒業した 49 名のうち 30 名ほどが地元で就職をしていて、地域を支えていく人材の育成という意味ではつながっているものと思っています。その 1 つとして庄農うどんがあり、今度は加茂水産高校とコラボでラーメンもやり始めていますけど、その取組みが次に繋がってほしいなと思っています。

今野会長

ありがとうございました。私から申し上げるまでもなく、庄内農業高校の存在というのは、藤島地域にとっては大変大きい存在になります。地域連携事業で、地域と協力しながら今までやって参りましたけれども、これからはなお一層力を入れて地域と学校の連携を強めて、新年度も取り組んでいくことを確認したいと思っています。

今は総合計画の中の後期の関係で、見直しの部分についていろいろと意見交換しているわけですが、次の「令和 5 年度の藤島地域の主要事業について」というところと重なる部分もありますので、説明の後、今の総合計画の内容も含めて意見交換にしたいと思います。事務局から説明をお願いします。

(2) 令和5年度藤島地域主要事業 資料5-1、5-2

－ 説明 －

- ① 総務企画課長 小林正雄
- ② 市民福祉課長 長谷川郁子
- ③ 産業建設課長兼エコタウン室長 上野衛
- ④ 総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優

今野会長

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問を受けたいと思います。

委員

最近、民間企業には役所から色々な補助金がかかり入ってきます。昔は農業関係の補助金が多かったと思いますが、今は経済産業省などから地域起こしの観点もあるんじゃないかと思います。大学でも研究に対して補助金が出るそうで、私立だけではなく山形大学などの国立大学でもどんな事業をするかによって出るようです。予算が無いのならば工夫して、国から補助金をもらうことができるのではないのでしょうか。

鶴岡市がすぐに国から補助金を受け取ることが無理でも、民間企業と組んでその事業をやってもらう形にすれば可能性があると思います。

成田支所長

庁舎でもアンテナを張って頑張ろうとはしております。ただ、なかなか情報がないとか要件が合わないとかで苦戦しています。本所レベルでは一定程度、その事業について補助を受けている部分で事業費に回っている可能性もありますが、庁舎ももっとアンテナを高くして、国県の補助金を引っ張ってこられるような事業の組み方をやろうと努力しています。

委員

鶴岡市に合併してから、藤島の元気がなくなっているという話はよく聞きます。それは三川町対藤島とか、余目地域対藤島というような比較で言われるわけで、このことは藤島が独自で新しいことをやっていない、やっていけるような体制ではなくなったということです。あるいは、体制はあるのだけれども無いと錯覚したのかもしれませんが、とにかく、なにか新しいことをやることによって活気が出てくるのではないかなと思うので、庁舎独自で補助金をもらうというような発想で道が開けるような気がしますので、是非お願いしたいと思います。

今野会長

大変重要な視点のご意見がありました。是非、商工会関係の皆さんとも懇談を通して、商工関係で何かいい支援事業が無いかなどを探りながら、少しアンテナを高くしていろんな情報収集に努力してください。

委員

藤島観光協会では私も充て職で副会長になっていますけれども、夏祭りや秋祭り、その他の会議に案内をもらったことは一度もありません。事業に関係する人達、例えば Hisu 花のリーダーの方とかを役員に加えたりして組織を再編した方がいいのではないかと思います。

もう1つ、渡前地区地域活動センターの体育館ですが、先の選挙で市長が公約の重点項目に栄・渡前等の防災等多目的施設整備と挙げているのに、担当部署では整備できないという回答でした。これではおかしいと思うんです。

市長が公約でやろうと言っているのを、担当部署がただ出来ませんと言うのはどういうことですか。

成田支所長

すみません、難しい課題ですが、庁舎ができないということではなく、活動センターの整備を担当する部署、あるいはスポーツ施設を担当する部署の立場では、現状整備は厳しいという見解であることを先ほど言わせていただきました。

もちろん、市長公約なので藤島庁舎としては大きな課題だと思っています。それで、先程の補助金を活用した施設整備をすとか、関連した事業を持ってくることを考えていけない限り難しいので、部署を越えた横断的な検討が必要と考えています。

委員

資料には年数が書いてありますけれども、渡前の体育館は69年経過しています。もっと早く、20年ぐらい前にやっていたら合併特例債とかいろいろできたと思うのです。市長がやると言っているのだから、努力するということがあっても良いと思います。組織の垣根を無くしてなんとかみんなでやろうという気持ちになれないのでしょうか？

私は25年以上、これだけの思いでずっとやってきましたが、誰も何もしてくれなくて本当に納得できない。鶴岡市でも一番古い建物で、恥ずかしくないのですか。なんとかしてもらえるように努力してください。

今野会長

委員からは今までも同様のご意見がありました。市長が選挙の公約の1つにあげたということは私も承知しております。その後、ほったらかしにしたということではなくて、い

ろいろな角度から検討されてきたと思うのです。私が申し上げたいのは、渡前地区全体であの体育館をもう一度体育館として建てることの合意形成があるのかということです。

新しく建てるに越したことは無いと私も思いますが、これからの小中学校の将来のあり方が今話題になっているわけなので、その中でしっかり議論していくということも大事ではないかと考えています。

委員の言うことは充分に分かりますが、今後の渡前地区の体育施設のあり方については渡前地区だけ特別だというわけにはいかないと思いますので、市全体の状況を考えながら検討をさらに続けていただく以外にないのかなと私は思います。

これは、委員の強い意見、要望だということで受け止めて頂きたいと思います。

委員

私はご縁繋ぎというか婚活の仕事をしていますが、婚活は少子化対策にもなるし、藤島に人を呼びたいと思っています。全国の人と繋がれるお見合いをやっているのですが、全国からこっちに呼ぶためには、藤島っていいなとか、この地域の魅力をわかっていないとアピールできません。例えばグラウンドゴルフをしている人で SNS に強い人がいたら、そういう年代の人たちも楽しんでるよとか、そういうのを発信したらいいと思います。Hisu花もそうですが、今の時代は発信してなんぼって言うか、それでみんなに注目してもらえんと思います。また、子育て世代の人達がここから出ないで子育てをしているってことは、何かしらメリットとか良いと感じるところがあるからだと思うんですね。そういった人たちから何で藤島から出ないでここにいるのかということも聞きたいし、役所のホームページに藤島のいいところを載せて、それを見てもらうのはいいなと思うのです。

グラウンドゴルフも、私はただ母がやっているから知ってるだけで、そういう盛り上がりも知らない人たちがいっぱいいると思うので、配信などで知ってもらえるようななにかができればいいのかなって思います。

今野会長

大変貴重な意見だと思います。私も鶴岡市のホームページをよく見るし、各庁舎のページもありますが全然面白くない、本当に面白くない。発信力ゼロ。観光協会もいまいちダメ。その辺をもう1つ2つ3つ力を入れれば、藤島のいいところのアピールができて認識度が高まるんじゃないかと思えますし、そんなに金をかけなくてもできるんじゃないですか？ 頑張ってください。

委員

私は青年会議所で赤川花火大会の実行委員をやらせていただきました。花火大会がこの30年間の歴史の中であれだけ右肩上がり急成長した勝因、一番は SNS で全国の花火マニアを取り込んで、その人たちの情報発信が仲間を集め呼び、赤川すごいと集まってきた

経緯がありました。そう思わせるためには提供する商品が本物でないと全国のマニアたちはうならないし集まりません。

藤島のこの 3 大祭りとかもそうなんですけども、ある意味、特化したマニアに受ける本物を提供することによって、全国から人を集めることができるのではないかと思います。藤島だけの小さなエリアで人を囲って祭りを盛り上げるのではなく、伝統芸能、本物をよりアピールして、全国のそういうマニアの人たちに情報発信をすれば、今、お金があって時間のある人、高齢者がいっぱいいますので、そういう人たちがこぞってキャンピングカーにでも乗って藤島に祭りを楽しみに全国から集まってくるような仕掛け作りをすれば、赤川花火大会のように全国から人を呼ぶことができるのではないかと思います。それには、情報発信をガンガン行って、全国から藤島に人を集めていく仕掛けを作ってみてはどうかと思います。

今野会長

本当ですね。今の若い人たちは SNS とかを見て、行ったり来たりしゃべったりしています。私の家の小さな店でも、ホームページを見ながら 2,800 円のコースでお願いしますとかいう予約の仕方なのです。庁舎のホームページも結果の報告みたいなことばかり書かずにもっと面白いことを掲載していただきたいです。新年度はしっかり頑張ってください。

委員

ホームページは庁舎で自由に作れますか。

齋藤総務企画課地域まちづくり企画調整主査

簡単に作れるようになっていますが、同じフォームで作るしかない仕様になっていて、独自性を出すとかは難しい形になっています。

でも、今はホームページよりも SNS が主流になっていて、ホームページと連動して Facebook や Instagram とかに掲載していますので、見せ方というよりはその発信するツールをうまく活用することが大切だと思います。

今野会長

まあ、SNS でも何でもうまく活用して、他の庁舎に先駆けてやってください。ちょっと刺激を与えたほうがいい、藤島から個性を出してやりましょう。

委員

今は、Z 世代と呼ばれる世代を中心に、我々もですけど、スマホとか情報のツールが手元にあって、いつでもどこでも情報も入りますし、遠いところに行かなくともその産地のものが手に入れることができるとかすごい時代に入ってきていると感じております。若い

人はそういう環境に置かれていて、積極的によそへ出かけようとは思わないのかなというところもありますので、花火の例もありましたが、お店とか企業も SNS を活用して、それを見る大学生とか若い人たちが発信するような形態が最近増えてると思います。藤島でもそういった方法をどんどん使っていけばいいかなと考えております。

今野会長

はい、そういうことですので、是非前向きに取り組んでください。

委員

今、ぽっぽの湯を地元の運営協議会で運営しています。SNS ではないんですが、ぽっぽの湯の情報発信も第三セクター時代は、白黒の箇条書きのペーパーでの発信でしたが、今はデザイン的にもカラー刷りとなり大変読みやすくてすごく良くなったとの声を住民の皆さんから聞くことができるようになりました。それから、ぽっぽの湯のフォトコンテストでは若い人の参加をねらい、スマホで撮った写真を QR コードを読み込んで自治振興会に直接申し込めるスタイルを取りました。そうしたら半分くらいが若い世代の応募でした。自治振興会の事業もどうしても高齢者が中心の事業になってしまうもので、若い人から興味を持ってもらえる事業の流れが作りにくいのですが、このようなスマホや SNS の活用をすれば、若い人が関心を持ってくれるんだなということを実感したところです。

長沼のデマンド交通について、実証運行 3 年目を迎えますが、先ほど報告もありましたが利用が伸びず私自身も苦勞しています。これまで、通院・買い物を家族、友人や知人なりに頼ってきた人達なので、それを急に替えていくことは難しいところもあると思っています。ただ、今リピーターとなって使っている人にとっては本当に大切な交通手段になっていますので、実証運行は続けて、さらに裾野を広げるようなことをしなければならないと今は考えているところです。

ぽっぽの湯の来年度の事業は、特に子育て世代の視点で載っています。確かにぽっぽの湯の入浴者数も増えてきましたが、やはりこういう視点も必要なのかなと思いました。自治振興会でもいろんな事業をぽっぽの湯でやらせていただいています。こういうところにも力を入れていかなければならないかなと思っていました。

地域の活性化という面でのぽっぽの湯の役割とのことですが、運営協議会の役員会で、ある役員から、ぽっぽの湯の経済効果ということで入浴と直売所と食堂とで年間 1 億のお金が発生しており経済効果は大きいので、そういう視点に立っていろいろなことを考えた方がいいという貴重な意見が出されました。それを聞いて、改めてそういう視点も必要だと痛感したところです。

今野会長

土地改良区の委員、発言をお願いします。

委員

私が理事長になった時からずっとコロナ禍で、この4月で3年が過ぎます。全てに関係していることなのですが、自粛自粛という中で3年間止まっていたものを動かすには、思い切ったこともしないと駄目なのかなと感じました。

先ほど委員から、人を集めて次来てもらうことが大切だという話がありました。因幡堰土地改良区でも田んぼの学校として年間を通した活動をやっていますが、3年間ほぼ休止した状態で、今年もできないという判断をしました。それ以降の行事に関しても悩んでいるところです。

あと、この資料の2番の藤島農産物元気事業は農業関係の事業だと思いますが、やっている中身が見えてこない部分がある割に結構予算があるのだなと感じました。

ぼっぼの湯の話も出ましたけれども、人が集まるのには飲食できる環境を充実させることが大事なのかなと思うし、飲酒した後のタクシーや運転代行がここ3年間でだいぶ少なくなった感じもして憂鬱だといっちは変ですけども、ずっと帰れる乗り物も藤島に欲しいなと思います。

委員

先週から庄内たがわ農協の下期の集落座談会がありまして、令和5年度の事業計画等をお示ししたところであります。その中で、事業主体は行政でありますけども、人・農地プランの地域計画策定を行政とJA一体となって進め、農協としては経営規模などを把握しながら、次世代総点検運動として取り組んでいきます。また、GAPについては農協としても農産物直売に特化して取り組むこととしており、GAP認証については、生産現場の課題解決のため、営農指導員のプロジェクトチームを作って対応していくこととあります。

また、米コンクールについては、鶴岡産米じゃなくて藤島産米でいけないのかと質問しましたところ、ふるさと納税の関係で鶴岡産米だということですが、庁舎の事業でもあり鶴岡全域に広げず、藤島に特化した取り組みでいいのかなと感じたところです。

今野会長

意見ということで聞いていただければと思います。

私も地域振興懇談会の会長という立場になって2年になりますけども、皆さんからいろいろなご意見を拝聴いたしました。藤の花の住宅団地造成の時期、藤島は非常に活気がありました。いろいろなところから引っ越してきて家を立てて、藤島体育館の周辺に120～130世帯規模の藤の花町内会ができました。私は第2の藤の花町内会の夢を見ているんです。場所は庁舎の南側、Hisu花の東側で、土地改良区があつて田んぼになっていますけれども、ここを何とか開発できないかと夢を見てるんです。規模的には藤の花町内会よりも小さくなるかと思いますが、公園の脇なので有効な土地の活用を考えていくことは、

これから1つの大きいポテンシャルになるんじゃないかと思うので、若い人たちを呼び込むような住宅開発ができないかと思うのです。ぜひ、私が生きている間に実現してほしいものだと思うし、土地改良区の委員の力も借りながら、それも検討の一つの中に入れてほしいと。これは、個人所有の田なので、理解を頂かないと開発は実現しないわけですが、そういうことを視野に入れながら、少しずつ定着人口を増やしていくということも課題として取り上げて頂ければと思います。

委員

藤島教育振興会議の委員を務めています。学校とその住宅との兼ね合いで、新しくできる庄内にはないタイプの学校に入学を希望する家庭があった時、ここに住むところがあると進められるような話の持って行き方もあるのかなと思います。

今野会長

例えば、藤島の小中一貫校に入りたいという鶴岡の人がこっちに越すことはできるわけです。

成田支所長

本当に子育ての人が思うような学校作りや施設作りができるならば素晴らしいと思います。私は藤の花ニュータウンの工事担当でしたので、あちらこちらから人がいっぱい来て活気があって、大変嬉しかったことを思い出します。ただ、住宅政策というのは市の大きな柱でもありますので、一庁舎で計画できるものではありませんが、遊休になっている土地が多くあるので、そういったところをうまく活用して人口減少に歯止めをかけるような政策は必要だと思います。特に藤島の場合、庄内町あるいは子育てに多くの資金を投入している三川町と隣接していることもあり、人口流出は非常に重要な課題だとは思っております。庁舎でできることも考えながら、そちらの方にも目を向けていきたいと思えます。

今野会長

声をあげることが大切です。最初から庁舎単位では無理とかそんな弱い気持ちじゃダメです。庁舎で声を出していけば城は動くのでぜひ頑張ってください。

本日の意見交換は終了させていただきたいと思えます。皆さんから貴重なご意見をいただきまして、大変ありがとうございました。

小林総務企画課長

今野会長ありがとうございました。

5のその他です。令和5年度予算額と表示したところについてはまだ審議中でありませ

ので、この場限りということをお願いします。

委員の皆さんから何かございますでしょうか？

この懇談会は任期が2年となっており、本日が最後の会議となりました。成田支所長から皆様にお礼のご挨拶があります。

成田支所長

委員の皆様には2年間大変ご苦勞をおかけいたしました。今まで経験したことのない、コロナ禍という難しい状況の中で、様々なご提案を頂き本当に感謝しております。庁舎としても予定していた事業ができなかったりと苦しさもあったのですが、なんとか皆様から、特に私は叱咤激励を受け続けてやってこられたと思います。

次年度は、ウィズコロナ、あるいはコロナ前の平常化に向けた動きがますます活発化してくると思います。庁舎の主要事業をベースで頑張っていきますが、今日頂いたご意見も十分に含みながら藤島の、本当にふるさとのためになることを庁舎としても頑張っていきたいと思っております。皆さんには今回で任期切れになるわけですが、地域の各所でご指導・ご助言、叱咤激励を引き続き頂きますようお願い申し上げまして、2年間の感謝の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

小林総務企画課長

長時間にわたりご協議いただきまして大変ありがとうございました。これを持ちまして、令和4年度第3回の藤島地域振興懇談会を終了させていただきます。皆さん、本当にありがとうございました。